平成23年度 文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」

放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー 育成プログラム

Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for Renaissance from Radiation Disaster

平成26年度
外部評価報告書

広 島 大 学
－Hiroshima University－

目　　次

Ⅰ 総　　括

1　特に優れた点として次のことがあげられる。	1ページ
2　主な改善を要する点として次のことがあげられる。	4ページ
3　「1」及び「2」のほか，さらなる向上が期待される点として次のことがあげられる。	6ページ

Ⅱ 基準ごとの評価

基準1　目的

観点1　本プログラムの目的が，文部科学省による「博士課程教育リーディングプログラム」の目的である「俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー」の育成に合致したものであるか。	7ページ

基準2　実施体制

観点2－①　プログラムにおける指導・支援体制が，プログラムの目的を達成するために，適切なものとなっているか。	9ページ
観点2－②　プログラムにおける企画・運営・連携体制が，プログラムの目的を達成するために，適切なものとなっているか。	9ページ
基準2　実施体制 総合評価	10ページ

基準3　担当者及び教育支援者

観点3－①　プログラムにおける教員組織編成の方針が確立され，教育研究に係る責任の所在が明確になっているか。	12ページ
観点3－②　プログラムにおいて学生の指導を担当する教員は，「放射線災害の複合的な被害からの復興を横断的かつ統合的にマネージメントする「フェニックスリーダー」を育成する」というプログラムの目的に対して適切か。	12ページ
基準3　担当者及び教育支援者 総合評価	13ページ

基準4　学生の受け入れ状況

観点4－①　教育の目標に沿って求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針が明確に定められ公表，周知されているか。	15ページ
観点4－②　入学者受入方針に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実質的に機能しているか。	15ページ
観点4－③　入学者受入方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取り組みが行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	16ページ
基準4　学生の受け入れ状況 総合評価	16ページ

基準５　教育内容及び方法

観点５－①	教育の目的や授与される学位に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されており，授業科目の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。	18㌻
観点５－②	分野横断型の指導により多様な背景を持つ学生を学位授与へと導くプロセスの管理及び透明化の手段を備えているか。	18㌻
観点５－③	高度な研究及び実践に豊富に接する中で魅力ある教育を実践し得るように教育機能の充実が図られているか。	19㌻
観点５－④	国際的な課題解決に向けて活躍する人材を育成するために，国際的なコミュニケーション能力や交渉力を高めるためのさらなる工夫と努力がなされているか。	19㌻
観点５－⑤	教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され，活用されているか。	20㌻
観点５－⑥	自主学習への配慮，専門外の他分野に関する科目を履修する学生への配慮等が組織的に行われているか。	20㌻
観点５－⑦	遠隔地の社会人学生等への授業を行う際に，印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。），放送授業，面接授業（スクーリングを含む。），若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され，適切な指導が行われているか。	21㌻
基準５	教育内容及び方法 総合評価	21㌻

基準６　教育の成果

観点６－①	学生が身につける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等に照らし合わせて，その達成状況を検証・評価するための適切な取り組みが行われているか。	23㌻
観点６－②	アンケート等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。	23㌻
基準６	教育の成果 総合評価	24㌻

基準７　学生支援等

観点７－①	優秀な学生同士が切磋琢磨し刺激しあう環境が構築できているか。	25㌻
観点７－②	学業及び研究に専念できる，生活支援がなされているか。	25㌻
観点７－③	学生が主体的に独創的な研究を計画・実践できる工夫がなされているか。	26㌻
基準７	学生支援等 総合評価	26㌻

基準８　施設・設備

観点８	プログラムにおける教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備されているか。	28㌻

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点９　プログラムにおける評価体制が，プログラムの実施状況を評価するために，適切なものとなっているか。	29 ㌻

Ⅲ　評価結果集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30 ㌻

Ⅳ　外部評価で指摘された課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31 ㌻

Ｖ　平成26年度フェニックスリーダー育成プログラム外部評価実施要項 ・・・・・ 33 ㌻

Ⅰ 総 括

※個人情報保護及び公正な評価のため，各外部評価委員は匿名の上，記号で表記した。

1 特に優れた点として次のことがあげられる。

委員 A: 前年度の課題に対する適切な対応がなされたことは優れた点である。特に、放射能社会復興コースに社会科学分野のプログラム担当者を加えたこと、専任の英語教員を雇用したこと、国際コミュニケーションの機会を多く提供したこと、評価委員会へ学生を参加させたこと、などがよい結果を生んでいると考える。
委員 B: 学生を受け入れて3年経ちました。開始時期には、正直なところこのような目的のプログラムが日本に存在し得るのか、特に指導者の確保を非常に気にしていましたが、現実3年たった学生の自主研修の結果を拝見して、広島大学の担当者の素晴らしい努力に敬意を表します。 この素晴らしいプログラムが今後も継続できるように、大学の中で科学的な中立を保ったまま資金を獲得できるように、今から準備されることも期待しています。
委員 C: 第1期生が3年次まで進学する時期となり、本プログラムの目的とする判断力と行動力を有したグローバルリーダーにふさわしい資質が学生に育まれていることが明らかとなってきた。特に、被災地の現場の状況を理解する能力と国際的レベルにおけるコミュニケーションの能力については、教育効果が顕著に表れている。また、学位取得に向けた基礎的学力も順調に増進している。
委員 D: 本プログラムでは、「放射線災害復興学」、「グローバルでリーダーシップに富んだ学生の育成」、および「教育・指導の仕組み作り」において優れた成果を上げている。 「放射線災害復興学」は、広島大学がこれまで蓄積した人的・知的資源に、国内外の人材や知識、福島での経験等を幅広く横断的に融合させ、特色ある学際的学問領域を構築している。 また「グローバルでリーダーシップに富んだ学生の育成」では、英語による研究発表やディスカッションの実施、学生によるシンポジム・セミナーの自主運営、プログラム評価委員会での学生委員の参加等、グローバル人材及びリーダーシップ育成の観点から、効果的な取組が行われている。 さらに「教育・指導の仕組み作り」では、学生への指導体制（指導教員制度、メンター制度、学生生活委員会、QE委員制度等）や、教員・学生間のコミュニケーションシステム（意見交換会、リトリート、eラーニングポートフォリオ、アンケート調査等）が整備されている。このような仕組みによる今後の成果が期待されるところであるが、大学教育・指導手法のモデルになるようにさらに改善に心がけ、内容の充実を常に図っていただきたい。
委員 E: 1)概して，フェニックスリーダー育成プログラムは他に類を見ない大変重要なプログラムである。 2) 広島大学は，原爆放射線医科学研究所のように大変重要で他に類を見ない資源，研究

室及びデータを有しており，広島大学の学生はそれらを学内で容易に利用することができる。 3)広島大学において、学生は放射線被ばくに関して，社会経済，心理，臨床の面で専門的で比類のない知識や経験を持つ非常に優秀な大学教員及びその他の講師から学ぶことができる。 4) 広島大学は、放射線医学総合研究所や福島大学といった卓越した他機関と連携し，他に類を見ない実践的な学修体験を提供している。
委員F: 平成２６年度外部評価委員会でフェニックスリーダー育成プログラムは成長軌道に乗ったということが明確に示された。 入学生選抜の過程，カリキュラムの全体的な構成，実践的な活動（ショートフィールドビジット，短期フィールドワーク，インターンシップ）及び学生支援体制が十分に整っており，そのすべてが素晴らしい一貫性を示している。 外部評価委員会ミーティングに続き開催されたフェニックスリーダー育成プログラムの第４回国際シンポジウムは，プログラム発足以来行われてきた取組が，学生の力を伸ばすために大変に有効であることが実証された。また，組織としての質だけでなく学生によるプレゼンテーションは，プログラムに関わるすべてのチームからの期待に応え得るものになっていた。 学生の英語を操る力は大幅に向上しており，ますます自信に満ち溢れているようだ。 さらに，フィールドビジットにより，学生は災害後の現地の状況における問題と課題をより深く理解することができているように思われる。
委員G: ・非常に優れたプログラムのリーダーシップ ・プログラムに対する岡本先生の献身と情熱 ・プログラムを運営するための神谷先生の忠実なサポート ・放射線学分野の専門家が社会学分野の専門家（ほとんどがIAEA のSTS専門チームから）と共同し，国際的にアプローチしていること ・国際的な背景による学生の多様性 ・学生への支援体制が素晴らしい ・経済支援
委員H: ・フェニックスリーダー育成プログラムは３年目の終了に向け改善され続けている。最近の報告書に示されているプログラムの長所としては，優れたプログラムの組織構造，他に類を見ない素晴らしい学生支援体制及びネットワーク，素晴らしい学生の業績などが例として挙げられるが，これらの多くの長所が今年伸び続けている。 ・前回の評価委員会で出た意見や提案に対し，プログラムは真摯に向き合っており，また以前の懸念に関しても改善へ向け一歩踏み出された。従って，プログラムは全体として今まで以上に力を増している。 ・プログラムは以前より“グローバル”で国際的になっている。
委員I: ・このプログラムは他に類を見ないもので，学生は意欲的で多次元的な考え方ができている。 ・プログラムの内容を継続的に改善できるようリーダーシップが発揮されており，委員

会の助言や学生からのフィードバックを実践していくために柔軟に対応している。
・座学と実習の組み合わせにより，実社会での問題解決を手助けできるような博識な個人個人を育成している。
・シンポジウムやインターンシップといった国際的な場を経験にすることにより，学生はグローバルな視点での理解を深めることができる。

2　主な改善を要する点として次のことがあげられる。

委員 A：ティーチングハンドブックの作成はよいが、非常に分かりくい。基準 3 のところに具体的な内容を記載した。
委員 C：プログラムの継続性について教員が共通した認識を有することが必要であり、そのためにはファカルティディベロップメントにおいて、少人数のグループ討論などによって教員一人一人が教育内容について意見を発表するような機会が必要である。
委員 D：・放射能環境保全学コースの研究テーマは殆ど放射能汚染状態調査に集中しているので、できるかぎりテーマを多様で幅広い内容となるように指導していただきたい。 ・学生の俯瞰力、独創力を養成の観点から、連携機関やインターンシップの受入れ先は原子力・放射線関連のみならず、自然・人的災害対応機関等も含めて、幅広く拡大していただきたい。
委員 E：概して，フェニックスプログラム運営のための資金を持続的に獲得していくことが，今後，プログラムをより良いものにするためには必要不可欠であるように思われる。 広島大学は，他に類を見ない，世界的に注目されるような教職員や物理的資源を有することにより，このように重要な教育プログラムを構築するには，間違いなく世界一の環境が整っている。 世界では，放射線災害やその他大規模な災害など、全ての種類の世界の緊急事態に対応できるようなトレーニングを受けている人材が緊急に必要とされている。 また，放射線関連の災害の他、全ての起こりうる事態に対する対応や復興に向けてのパターンは類似しているため，フェニックスリーダー育成プログラムの学生は全ての災害対応において確実に世界のリーダーとして活躍できるだろう。 もしフェニックスリーダー育成プログラムが持続的に資金を調達できなければ、それは悲劇である。
委員 F：もし本プログラムが広く一貫性と効率性を備えたとしても，簡潔かつ明瞭に理解することは依然として難しい。 運営レベルの構造，カリキュラムレベルの学問領域，教育方法の多様性は，理解や判読を促すものではない。 この難しさにより評価委員だけでなく学生や外部の人たちにとってもこのプログラムの一般的な目的や真意を理解しがたいものになっている。 ほとんどすべての調整が順調に進んでいる今，フェニックスリーダー育成プログラムの状況をより明確にするには、外部評価委員会において学生と協力して評価することが有益であろう。
委員 G：・学内の社会科学分野の教員がより多く参加すること ・学内の基礎臨床科学分野の教員がより多く参加すること ・フェニックスリーダー育成プログラムの目的や意義について価値観を共有するために学内教員に対しトレーニングしていくこと
委員 H：・前回の外部評価委員会で示されたように，フェニックスリーダー育成プログラムの全体的な目的は放射線災害復興の場で社会のリーダーとして活躍できるような放射線学分野の科学者を育成することである。従って，主なトレーニングの目的の一つは，放射線災害の際に市民が遭遇する健康リスクや社会問題について，一般の人々にとって

不明瞭な言葉を使わずに，説明ができるような優れた放射線科学者を育成することだ。トレーニングを受ける者はその仕事に適任の放射線生物学，放射線物理学または放射線医学のいずれかの専門家であるべきだ。 ・生態学や心理学のような社会科学も重要ではあるが，それらは，あくまで基礎放射線学科学分野の完全および確固たる基礎に対して補助的なものである。 ・本質的には，学生は放射線災害の場でまさかの時に“導く”ために“知る”ことが不可欠である。
委員 I:・特に大きな問題はない。 ・具体的な提案は，各セクションに示す。 ・主に，学生の育成に加え，教授法を共有し学際的なコミュニケーションをとるため、包括的に各大学院と相互に影響を及ぼし合いながら，教員をも育成していく。

3　「1」及び「2」のほか，さらなる向上が期待される点として次のことがあげられる。

委員A：いろいろなアンケートを実施して学生の評価をしている中で、傾聴すべき意見が出されているので、その点での改善が必要である。
委員C：学生のプログラム修了後のキャリアパスについて、より具体的に検討することが期待される。
委員D：本プログラムは高度人材育成を目指した優れた取り組みである。成果の見られる教育の仕組みや手法は、大学内外の他の教育、授業プログラムにも水平展開し、教育全体のレベルアップに繋げていただきたい。
委員E：今後，世界各国（特に原子力発電所がある，または計画している国）からの学生を獲得するために，日本国外に向けてもっと効果的な宣伝広告が必要である。
委員G：-もっと主体的な学修方法（アクティブラーニング）を：講義数を減らし，セミナーを増やす（フェニックスリーダー育成プログラムの学生は大学院生であるため）
委員I：共通コースワークに放射線生物学と遺伝学を取り入れるべきではないか？

Ⅱ　基準ごとの評価

※　評価結果の評点については，各委員の評価選択のうち「満たしている」を４点，「概ね満たしている」を３点，「部分的に改善の必要がある」を２点，「多大な改善の必要がある」を１点として算出した。

※　平均評点 0～1.5 点未満を「多大な改善の必要がある」，1.5～2.5 点未満を「部分的に改善の必要がある」，2.5～3.5 点未満を「概ね満たしている」，3.5 点以上を「満たしている」として，□に✓を記入して最終的な評価を示した。

基準１　目的

観点１　本プログラムの目的が，文部科学省による「博士課程教育リーディングプログラム」の目的である「俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー」の育成に合致したものであるか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 基準１を満たしている

□ 基準１を概ね満たしている

□ 基準１について部分的に改善の必要がある

□ 基準１について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	4	4	4	3	4	4	3.89

【コメント】

委員 A: 第 1 回の STS 国際会議の開催では、IAEA の高い評価を受けたことは大いに評価できる。
委員 D: 本プログラムは、広島大学の医学、工学、人文社会学等、幅広い学際領域に亘り蓄積された知的・人的資源を結集するとともに、国内外の先進的事例や人材・知識を融合させ、ユニークな放射線災害復興学を形成している。俯瞰力と独創力を兼ね備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍できるリーダーを育成する本プログラムの趣旨に適ったものである。 　またプログラム委員会を設置し、評価部会や大学・学生・外部の意見を収集し、本プロジェクトの目的に沿った運営・内容の改善を常に心掛けている点も評価できる。
委員 G: リーダーシップ力や創造力は，チームプロジェクト（研究活動やフィールドワーク），セミナー及びインターンシップを通して，もっと強化できるはずである。 講義数をかなり減らなければ，学生が受け身で依存的になってしまう。 自立した学修により学生は自発性や，責任感を身に着け，フェニックスリーダー育成プログラムの修了生はより良いリーダーになる。
委員 H: ・IAEA との協力は，このプログラムの強みであると考えられる。 ・プログラムの成熟として，ICRP などの他の国際的な放射線科学諮問機関をトレーニングパートナーとして考えていくべきだ。
委員 I: プログラムは，学生がグローバルで分野横断的に考える力を伸ばせるような多岐にわたる体験学習を提供している。座学と実社会の体験を組み合わせることにより，学生たちは視野を広げることができる。

基準２　実施体制

観点２－①　プログラムにおける指導・支援体制が，プログラムの目的を達成するために，適切なものとなっているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

- □ 観点２－①を満たしている
- ☑ 観点２－①を概ね満たしている
- □ 観点２－①について部分的に改善の必要がある
- □ 観点２－①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	4	4	3	3	2	4	4	3.44

観点２－②　プログラムにおける企画・運営・連携体制が，プログラムの目的を達成するために，適切なものとなっているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

- ☑ 観点２－②を満たしている
- □ 観点２－②を概ね満たしている
- □ 観点２－②について部分的に改善の必要がある
- □ 観点２－②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	3	4	3	4	4	4	3.78

基準２　実施体制
総合評価

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 基準２を満たしている

□ 基準２を概ね満たしている

□ 基準２について部分的に改善の必要がある

□ 基準２について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	3	3	3	3	4	4	3.56

【コメント】

委員A:各学生に主任指導者1名、各コースから1人以上の副指導者で構成される指導体制を整えたこと、放射能社会復興コースに文学研究科の教員2人をプログラム担当者として追加し、指導を体制を整えたこと、メンターハンドブックを整備し、教員メンター、学生相談メンター、先輩メンターによるサポート体制を整えたこと、運営体制を、フェニックスリーダー育成プログラム全体会議、フェニックスプログラム運営会議、キャリアパス委員会を設置したこと、7つの企業・研究機関での短期インターシップの実施、14の機関と連携したセミナーやフィールドワークの実施など、よい指導体制を整備したと評価できる。
委員D:・プログラム指導教員制度、メンター制度、学生生活委員会、QE委員制度等、学生の生活から授業まで、きめ細かい充実した指導・支援体制が取られている。 ・連携機関については、原子力・放射線関連機関が殆どであるが、本プログラムが災害復興学であることから、原子力・放射線に拘らず、台風・地震・事故等、様々な自然・人的災害対応機関も含めて、多様な関連機関との連携の開拓に努めてはどうか。インターンシップの受け入れ先もそういった災害対応機関を入れてはどうか。 ・各種セミナーではリーダシップや医療体験に関する実践力を養成する授業が行われ、充実した内容になっており、この種のセミナーをさらに増やし充実していただきたい。またセミナー、シンポジウムの開催にあたり、学生の企画・運営参画を図っている点も評価できる。
委員G:より多くの社会科学分野の教員がこのプログラムに関わっていくべきだ。その人数よりも重要なのは，教員がいかにプログラムに対して深く関与するかである。
委員H:・学生が他のアドバイザーから矛盾した指導を受けたときのために，主任指導教員としての役割にもっと重きを置くべきだ。教員間の意見の相違は珍しいことではなく，そのような出来事から学生を護る手続きを設けるべきである。 ・キャリアパス相談や短期インターンシップはこのプログラムの更なる強みと考えられる。
委員I:・放射能社会復興コースと放射能環境保全コースに新たに5名の教員が加わった。 ・例えば税金などに関して規定を設け，学生を更に支援してはどうか。 ・学生生活委員を増員したことは，評価できる。 ・キャリアパス委員会が設置されたことは重要な一歩である。今後学生がどのようなところに就職するのか，また学生に就職の機会を与えていくことにもっと重きを置き，このプログラムと就職先になり得る機関との関係を育んでいくべきだ。 ・学生が研究プロジェクトやガイダンスについて議論できるよう，もっと教員とコンタクトを取りやすくしてはどうか。

基準３　担当者及び教育支援者

観点３－①　プログラムにおける教員組織編成の方針が確立され，教育研究に係る責任の所在が明確になっているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

□ 観点３－①を満たしている

☑ 観点３－①を概ね満たしている

□ 観点３－①について部分的に改善の必要がある

□ 観点３－①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	2	3	3	4	3	4	2	4	4	3.22

観点３－②　プログラムにおいて学生の指導を担当する教員は，「放射線災害の複合的な被害からの復興を横断的かつ統合的にマネージメントする「フェニックスリーダー」を育成する」というプログラムの目的に対して適切か。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

□ 観点３－②を満たしている

☑ 観点３－②を概ね満たしている

□ 観点３－②について部分的に改善の必要がある

□ 観点３－②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	3	4	4	3	4	2	4	4	3.44

基準3　担当者及び教育支援者
総合評価

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

□ 基準3を満たしている

☑ 基準3を概ね満たしている

□ 基準3について部分的に改善の必要がある

□ 基準3について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	2	4	3	4	4	4	2	4	4	3.44

【コメント】

委員 A: ティーチングハンドブックを作成したことは評価できるが、非常に分かりにくい。共通項目 C1、C2、C3 については学習目標、到達基準（細かすぎるように思う）が示されているが、M4～M9 の医療コース、E4～E7 の環境保全コース、S4～S9 の社会復興コースでは学習目標と基礎到達目標は記載されているが、到達基準が示されていない。 　また、例えば環境保全コース E4 の基礎到達目標には、原子炉の原理、構造、核燃料サイクルが理解できると与えられていますが、フェニックスリーダー専門科目には該当する授業科目名がありません。おそらくショートビジット等で講義が行われていると思いますが、それであればそのことを明記しておかないと、学生がどのような内容のショートビジットかが分からずに受講しないというようなことが起こるかもしれません。実際にはいろいろなガイダンスで学生に対する説明では丁寧になされているのではないかと推察しますが、受験生がこのハンドブックを見ると心配するというようなことが起こるのではないでしょうか。
委員 C:学生の教員に対する意見の中には、教員の教育に対する意識がまだ不十分である印象を与えるものもあるために、ティーチングハンドブックによる情報共有からさらに一歩進めて、授業設計のあり方に関して教員一人一人が参加して議論する取組も必要と思われる。
委員 D:・指導教員や QE 審査委員には複数の学部の教員や学外委員で構成されており、多角的に教育指導ができる体制になっている。またティーチングハンドブックにより教育内容が明確化され、教員・学生は教育方針の共有化が図られている。 ・教育セミナーで紹介されたカリキュラムマップや、ルーブリック、e ポートフォリオ、シラバス等は、近年　大学教育の質保証手法として関心が高まり導入が進みつつあるが、未だ活用が限定的で成果が十分でないとの意見もある。本プログラムでも改善点を整理し、さらに使いやすく効果的な内容にしていただきたい。
委員 G: ティーチングハンドブックの配布は必要なことだが，効果的な教育には十分ではない。すべての教員が確実にフェニックスリーダー育成プログラムの目的と意義を理解するために“教員の教育”が必要である。 学際的なセミナーが効果的に開かれているか確認することも重要である。これらのセミナーの質を誰が評価するのか。フルタイム英語教員の指導は素晴らしく，それは学生の英語力の向上から確認できる。
委員 H: 英語及びプレゼンテーション技術を教えるために，ネイティブの英語教員を増員し，また，講義における英語使用を義務付けることで，学生の英語のスピーキング力及びリスニング力は伸びるだろう。
委員 I:・英語教員を採用することでプログラム内の重大なギャップを埋めることができていることは評価できる。 ・前述されているような更なる教育セミナーを今後も続けていくべきだ。 ・意見交換や教育法改善のために，教員は他大学の大学院ともっと関わっていくべきではないか。

基準４　学生の受け入れ状況

観点４－①　教育の目標に沿って求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針が明確に定められ公表，周知されているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点４－①を満たしている

□ 観点４－①を概ね満たしている

□ 観点４－①について部分的に改善の必要がある

□ 観点４－①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	3	4	4	4	4	4	4	3	3.67

観点４－②　入学者受入方針に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実質的に機能しているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点４－②を満たしている

□ 観点４－②を概ね満たしている

□ 観点４－②について部分的に改善の必要がある

□ 観点４－②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	4	4	3	4	4	3	3	3.56

観点４－③　入学者受入方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取り組みが行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点４－③を満たしている

□ 観点４－③を概ね満たしている

□ 観点４－③について部分的に改善の必要がある

□ 観点４－③について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	3	4	3	4	4	4	4	3	3.56

基準４　学生の受け入れ状況
総合評価

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 基準４を満たしている

□ 基準４を概ね満たしている

□ 基準４について部分的に改善の必要がある

□ 基準４について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	4	4	3	4	4	4	4	4	3.78

【コメント】

委員A:国内での入試説明会、海外での入試説明会が丁寧に行われていることは評価できる。また、1泊2日の合宿形式の面接審査は評価できる。 社会人学生の時間割を作成し示されているが、環境保全コースの時間割を見ると、環境反応化学、気象学など入っていない科目があります。これは例示なので、全ての科目が入っていなくてもいいと思いますが、その説明がないので、学生が誤解するかもしれません。
委員D:・海外入学者はこれまで東南アジアの学生が多いが、原発建設の具体化計画が進んでいる中東欧諸国(ポーランド、チェコ、ハンガリー、リトアニア、ブルガリア)や、中近東諸国(トルコ、UAE、サウジ)等にも積極的にPRし、世界各地から学生を集めるよう努めていただきたい。 ・募集案内には、期待するグローバル人材像として((1)~(4))が記載されているが、若干抽象的で、プログラムの内容が理解しづらい点もある。「医療コース」、「環境保全コース」、「社会復興コース」の概要や、将来予想される進路分野等、具体的項目についても追加記載し、本募集案内ペーパー1枚で本プログラムの概要が容易に理解・イメージできる内容にしてはどうか。
委員G:学生の多様化が顕著である。このことで,フェニックスリーダー育成プログラムの国際性が保証されるだろう。
委員H:・報告の観点4-②において,本育成プログラム入学への要素であるべき学生の学問的背景が、熟考されているかどうかが明確ではない。 ・報告からはフェニックスリーダー育成プログラムに6名の学生を受け入れるにあたって,元々の応募者数,面接試験を受けた候補者数が明確ではなかった。本質的に,フェニックスリーダー育成プログラムの競争率はどれくらいのものか。
委員I:・プログラム内の意識を高めるために,例えばJASTRO(日本放射線腫瘍学会),ASTRO(アメリカ放射線腫瘍学会),ESTRO(ヨーロッパ放射線腫瘍学会)などの学会を利用してはどうか。 ・学生の多様性はよく達成されているが、選抜方法の効果は明らかではない。

基準５　教育内容及び方法

観点５－①　教育の目的や授与される学位に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されており，授業科目の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点５－①を満たしている

□ 観点５－①を概ね満たしている

□ 観点５－①について部分的に改善の必要がある

□ 観点５－①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	4	4	3	3	4	4	4	3.67

観点５－②　分野横断型の指導により多様な背景を持つ学生を学位授与へと導くプロセスの管理及び透明化の手段を備えているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点５－②を満たしている

□ 観点５－②を概ね満たしている

□ 観点５－②について部分的に改善の必要がある

□ 観点５－②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	3	4	3	3	4	4	4	3.56

観点５－③　高度な研究及び実践に豊富に接する中で魅力ある教育を実践し得るように教育機能の充実が図られているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点５－③を満たしている

□ 観点５－③を概ね満たしている

□ 観点５－③について部分的に改善の必要がある

□ 観点５－③について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	3	4	3	3	4	4	4	3.67

観点５－④　国際的な課題解決に向けて活躍する人材を育成するために，国際的なコミュニケーション能力や交渉力を高めるためのさらなる工夫と努力がなされているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点５－④を満たしている

□ 観点５－④を概ね満たしている

□ 観点５－④について部分的に改善の必要がある

□ 観点５－④について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	4	4	3	3	4	4	3.78

観点5－⑤　教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され，活用されているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

□ 観点5－⑤を満たしている

☑ 観点5－⑤を概ね満たしている

□ 観点5－⑤について部分的に改善の必要がある

□ 観点5－⑤について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	2	3	3	4	4	3	4	3	4	3.33

観点5－⑥　自主学習への配慮，専門外の他分野に関する科目を履修する学生への配慮等が組織的に行われているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

□ 観点5－⑥を満たしている

☑ 観点5－⑥を概ね満たしている

□ 観点5－⑥について部分的に改善の必要がある

□ 観点5－⑥について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	4	4	3	4	3	2	3	3	3.22

観点５－⑦　遠隔地の社会人学生等への授業を行う際に，印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。），放送授業，面接授業（スクーリングを含む。），若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され，適切な指導が行われているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点５－⑦を満たしている

□ 観点５－⑦を概ね満たしている

□ 観点５－⑦について部分的に改善の必要がある

□ 観点５－⑦について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	4	4	3	3	4	4	4	3.67

基準５　教育内容及び方法
総合評価

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

□ 基準５を満たしている

☑ 基準５を概ね満たしている

□ 基準５について部分的に改善の必要がある

□ 基準５について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	3	3	4	4	3	3	3	4	3.33

【コメント】

委員A:ティーチングハンドブックや社会人モデル時間割に関連して記載しましたように改善の必要があると思います。
委員C:分野横断型の指導から学位取得へのプロセスが、多様な学生の背景をどのように考慮して管理されているのかが、まだはっきりしない。また、教育機能の充実に関してはファカルティディベロップメントをさらに充実させる必要がある。
委員D:・英語による研究発表やディスカッションの機会が設定され、また学生によるシンポジム、セミナーの自主運営やプログラム評価委員会での学生委員の参加等、グローバル人材及びリーダーシップ育成の観点から、様々な取組が実施されている。その結果、英会話能力や自主性・積極性の向上等、成果が上がっている。 ・インターンシップについては、大学・学生側と受入れ企業・機関側との教育方針・内容のミスマッチが無いように、本プロジェクトの趣旨である「放射線災害対応・復興学」に沿った大学・学生側ニーズを企業・機関側に的確に伝え、実施前に双方の打合せ調整を行い、満足いくものにしていただきたい。
委員G:社会科学分野の教員が不足していることと，プログラムへあまり関わっていないことを補うために，学生がもっと自由に広島大学（国内）のコースだけでなく，国外でのコースも選択できるようにするべきだ。
委員H:・総括で述べたとおり，カリキュラムは放射線科学の習得にもっと重きを置くべきだ。 ・学生に自主性を与えていることは評価できるが，リーダーシップを育成するというこのプログラムの主な目的から大きく逸脱しないような構造化された自主性を与えるということが大切だ。 ・自己評価報告書の１７ページに「フェニックスリーダー育成プログラムのカリキュラムは学生の３つの主要な能力：学際力・マネージメント力・国際力を育成するという観点から考案されている」と記述されているが，これらの規準は潜在的な放射線災害の幅広いテーマに沿いつつ，それらを包含することを記述されるべきだ。
委員I:・特定のリーダーシップコースを追加することも有効かもしれない。 ・高年次における長期フィールドワークは有効だが，授業から離れる時間が長いため，プログラムの進行に，ついていけないかもしれない。おそらく、進行に追いつけるように情報を与えるような復習的な講座を設けることが助力になるだろう。 ・観点５－①におけるすべての問題に対し適切に取り組まれていた。 ・Ｂｂ９により，効率が上がりコミュニケーションが容易になっている。 ・英語教員を採用し，学会での発表を学生に促すことで，学生のコミュニケーション力とリーダーシップ力を伸ばすことができるだろう。 ・正式なリーダーシップ科目の授業に加え，学生の性格・長所・短所を評価するためのテストを導入してはどうか。 ・コース科目をいくつか選択制にすることで学生は柔軟に対応することができる。

基準6　教育の成果

観点6－①　学生が身につける学力，資質・能力や養成しようとする人材像等に照らし合わせて，その達成状況を検証・評価するための適切な取り組みが行われているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点6－①を満たしている

□ 観点6－①を概ね満たしている

□ 観点6－①について部分的に改善の必要がある

□ 観点6－①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	4	4	3	4	3	4	4	3.67

観点6－②　アンケート等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点6－②を満たしている

□ 観点6－②を概ね満たしている

□ 観点6－②について部分的に改善の必要がある

□ 観点6－②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	3	4	4	4	4	3	4	3	3.56

基準6　教育の成果　総合評価

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 基準6を満たしている

□ 基準6を概ね満たしている

□ 基準6について部分的に改善の必要がある

□ 基準6について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	3	4	4	4	4	4	3	4	4	3.78

【コメント】

委員A: いろいろなアンケートにより、学生の意見や評価を改善に取り入れていることは評価できる。

短期フィールドワークアンケート結果に示されているように、事前準備に関してファイルを事前にオリエンテーションで配布したが持参していない学生がいた、とあるがメールで配信するときに持参することを説明しておけばよいので、すぐに実施する必要がある。

仮設住宅訪問の直前にグループ分けがなされたので、グループ内で尋ねる内容についてのグループ内の議論ができなかった、とあるがこれも直ちに改善できると思われる。

第2回と第3回リトリートアンケート結果で、改善事項が記載されているが、全てが同じ内容でこの間に改善されていないことが分かる。是非改善に取り組んでほしい。

委員D：・学生・教員間のコミュニケーションが、意見交換会、リトリート、ラーニングポートフォリオ、アンケート調査等でなされ、きめ細かい対応が取れている。またプログラム改善のためのPDCAも整備されている。

・教員・学生意見交換会の中で、本プログラム外の授業の関係から、本授業の負荷・スケジュールが厳しいとの意見が一部学生から出ているが、よくフォローしていただきたい。

委員I：・内容の重複を防ぐために教員間でカリキュラムの詳細をより細かく調整するための方針を打ち出す必要がある。委員会は月2回開かれてはいるが，教材の調整を薦めたい。

・学生はプログラムでの体験，教育水準，及び自分たちに向けられる注目度を肯定的に捉えている。

基準７　学生支援等

観点７－①　優秀な学生同士が切磋琢磨し刺激しあう環境が構築できているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点７－①を満たしている

□ 観点７－①を概ね満たしている

□ 観点７－①について部分的に改善の必要がある

□ 観点７－①について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3.89

観点７－②　学業及び研究に専念できる，生活支援がなされているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点７－②を満たしている

□ 観点７－②を概ね満たしている

□ 観点７－②について部分的に改善の必要がある

□ 観点７－②について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

観点７－③　学生が主体的に独創的な研究を計画・実践できる工夫がなされているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 観点７－③を満たしている

□ 観点７－③を概ね満たしている

□ 観点７－③について部分的に改善の必要がある

□ 観点７－③について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	4	3	4	4	3	4	4	3.67

基準７　学生支援等
総合評価

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 基準７を満たしている

□ 基準７を概ね満たしている

□ 基準７について部分的に改善の必要がある

□ 基準７について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	3	4	4	3	4	4	3.78

【コメント】

委員 D:・放射能環境保全コースの３年次生の研究テーマが、殆ど「福島の放射能汚染状況調査」に集中しているが、もっと多様な、総合的なテーマ選択も検討してはどうか。 たとえば福島の汚染対策の現状や課題、教訓等を、組織・制度面、技術・方法面等、多角的、総合的に調査、研究するテーマも取り上げてはどうか。 また、社会復興コースに関しても、復興の現状、進捗度、課題、その対応策等、他の震災復興事例等も参考にして、総合的に調査、研究することも興味深いのではないか。
委員 G：学生に対しもっと自主性を求めるべきだ。しかし，相対的な自主性を“モニター（監視）”できるよう指導教員とのより密接な関係も欠かせない。 教員はいつでも必要な時に学生の対応ができるようにしておかなければならない。
委員 H：このトレーニングプログラムには適所で素晴らしい学生を支援する体制が整っている。
委員 I：・学生が，フェニックスリーダー育成プログラムのシンポジウムや観点７－①を満たすようなアクティビティで主体となっていたことは評価できる。 ・素晴らしい経済支援体制 ・学生同士の議論や協力を促す環境

基準8　施設・設備

観点8　プログラムにおける教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備されているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 基準8を満たしている

□ 基準8を概ね満たしている

□ 基準8について部分的に改善の必要がある

□ 基準8について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	3	3	4	4	4	4	4	3	3.67

【コメント】

委員 A:ヒロシマ・フェニックストレーニングセンターについて、ほとんど記載がない。プログラムの中で重要な位置を占めている施設なので、詳しい記載がほしい。あるいは見学をすることも考えてはいかがでしょうか。
委員 C:施設や設備の整備は順調に進捗しているが、それらを将来永続的に活用する構想はまだ不足している。
委員 I：・優れた放射線検出と訓練の施設・設備 ・研究所に関する情報が不足している（例として，放射線生物学分野及び遺伝学分野における研究所の情報が明確でない）

基準9　教育の質の向上及び改善のためのシステム

観点9　プログラムにおける評価体制が，プログラムの実施状況を評価するために，適切なものとなっているか。

【評価結果】適した評価を一つ選び，□に✓を記入してください。

☑ 基準9を満たしている

□ 基準9を概ね満たしている

□ 基準9について部分的に改善の必要がある

□ 基準9について多大な改善の必要がある

委員	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
評点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

【コメント】

委員 D:外部評価委員会メンバーについては、本プログラムが放射線災害対応という実践的学問であることから、現在の放射線災害に直接対応している機関、企業、行政の立場から評価、コメントできる担当者・責任者も加えてはどうか。
委員 I:・評価委員会が二つあることや，外部評価委員会に学生を参加させていることで，このプログラムに対してバランスのとれた評価ができている。 ・助言や提案に対し真剣に検討し，実行することが求められる。

Ⅲ　評価結果集計表

委員		A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均(基準)
基準1		4	4	4	4	4	4	3	4	4	3.89
基準2	観点①	4	3	4	4	3	3	2	4	4	3.44
	観点②	4	4	4	3	4	3	4	4	4	3.78
	総合評価	4	4	4	3	3	3	3	4	4	3.56
基準3	観点①	2	3	3	4	3	4	2	4	4	3.22
	観点②	3	3	4	4	3	4	2	4	4	3.44
	総合評価	2	4	3	4	4	4	2	4	4	3.44
基準4	観点①	3	3	4	4	4	4	4	4	3	3.67
	観点②	4	3	4	4	3	4	4	3	3	3.56
	観点③	3	3	4	3	4	4	4	4	3	3.56
	総合評価	3	4	4	3	4	4	4	4	4	3.78
基準5	観点①	4	3	4	4	3	3	4	4	4	3.67
	観点②	4	3	3	4	3	3	4	4	4	3.56
	観点③	4	4	3	4	3	3	4	4	4	3.67
	観点④	4	4	4	4	4	3	3	4	4	3.78
	観点⑤	2	3	3	4	4	3	4	3	4	3.33
	観点⑥	3	4	4	3	4	3	2	3	3	3.22
	観点⑦	4	3	4	4	3	3	4	4	4	3.67
	総合評価	3	3	3	4	4	3	3	3	4	3.33
基準6	観点①	4	3	4	4	3	4	3	4	4	3.67
	観点②	3	3	4	4	4	4	3	4	3	3.56
	総合評価	3	4	4	4	4	4	3	4	4	3.78
基準7	観点①	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3.89
	観点②	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.00
	観点③	4	3	4	3	4	4	3	4	4	3.67
	総合評価	4	4	4	3	4	4	3	4	4	3.78
基準8		4	3	3	4	4	4	4	4	3	3.67
基準9		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
平均(委員)		3.50	3.46	3.75	3.75	3.61	3.61	3.32	3.86	3.79	3.63

Ⅳ　外部評価で指摘された課題

外部評価結果によれば，基準３及び基準５を除く各基準は「満たしている」と判断できる。昨は「概ね満たしている」であった基準６の評価が「満たしている」に転じたことは，明らかな前進である。一方で，基準３及び基準５は，昨年同様「概ね満たしている」の評価結果となった。ここでは，各委員が評価の総括として「主な改善を要する点」に記述した内容，および基準３及び基準５のコメントを参照し，以下に課題を示す。

なお，基準３及び基準５以外の「満たしている」（総合評価の評点平均値が 3.5 以上）（31㌻参照）と評価された基準に関しても個別のコメントを各委員会で吟味し，今年度の運営への示唆を得るものとする。

1　基準３「担当者及び教育支援者」に関する課題

【評価結果】

基準３に関する総合評価の評点平均は 3.44 であり，観点別に見ると観点３－①の評点平均は 3.22，観点３－②の評点平均は 3.44 であり「概ね満たしている」という結果となった。

【課題】

観点３－①－１　プログラムに関する教員間の認識の差の是正のために作成したティーチングハンドブックを分かりやすいものにする必要がある。

観点３－②－１　教育の在り方を議論し，目的に関する認識を共有する研修が必要である。

2　基準５「教育内容及び方法」に関する課題

【評価結果】

基準５に関する総合評価の評点平均は 3.22 で，観点別に見ると観点５－⑤の評点平均は 3.33，観点５－⑥の評点平均は 3.22 であり，「概ね満たしている」という結果となった。観点５－①～④，および観点５－⑦は「満たしている」という結果となった。

【課題】

観点５－⑤－１　ティーチングハンドブックを分かりやすくする必要がある。

観点５－⑤－２　分野横断型の学修と学位取得へのプロセスを明確にする必要がある。

観点５－⑥－１　社会科学分野の教員の参加の不足を補うために，プログラム外で学修する機会を拡大する必要がある。
観点５－⑥－２　リーダーシップに関する学修の機会を提供する必要がある。
観点５－⑥－３　長期の学外における活動の際に学生の進捗を把握する仕組みを作る必要がある。

3　総括評価に基づく課題

【評価結果】

総括（１㌻～６㌻参照）において，「主な改善を要する点」（３㌻～４㌻参照）として複数の事項があげられた。その中で，前述の基準に関わる事項以外について課題を明らかにし，改善策を示した。

課題に示す事項は，複数の評価者から指摘されているものであり，プログラムの今後の展開において特に留意する必要がある。

【課題】

総括－１　プログラムの継続性のための方策を明らかにすること，および教員間での共通認識が必要である。
総括－２　研究テーマが多様で幅広い内容となることが望まれる。
総括－３　インターンシップ先を，原子力・放射線関連に偏らず，自然・人的災害対応機関等も含めて拡大する必要がある。
総括－４　評価者のみならず学修者の活動を助けるために，プログラムの構造をシンプルに伝える必要がある。
総括－５　社会科学分野の教員の一層の積極的参加（講義）が必要である。

Ⅴ　平成26年度フェニックスリーダー育成プログラム 外部評価実施要項

1　平成26年度外部評価の目的

平成２３年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラムに採択された広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム（以下「フェニックスリーダー育成プログラム」という。）は，幅広い学際的な知識を基盤として放射線災害に適切に対応し，明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力を有した国際的に活躍できるグローバルリーダー（フェニックスリーダー）を育成することを目的として，平成２４年１０月からプログラムを開始しました。

平成２６年度の外部評価は，３年目を迎えたフェニックスリーダー育成プログラムの総点検として，大学教育認証評価の９基準に立ち返って評価を行うこととし，国内外の産学官界の有識者の先生に評価と助言を賜りフェニックスリーダー育成プログラムを全世界の期待に応える人材育成プログラムとしてさらに成長させることを目的とします。

2　日程表

（1）日　時　　平成27年2月14日（土）８：３０〜１２：００（昼食を含む）

（2）場　所　　リーガロイヤルホテル広島　安芸の間（3階）

3 外部評価委員会委員（9人）

氏名	所属・職名
柴田　徳思	公益社団法人日本アイソトープ協会・専務理事
長瀧　重信	公益財団法人放射線影響協会・理事長
宮川　　清	東京大学大学院医学系研究科・教授
山下　　隆	中国経済連合会・会長
Albert Lee Wiley	オークリッジ放射線緊急時支援センター/訓練施設（REAC/TS）所長
Jacques Lochard	国際放射線防護委員会（ICRP）・副委員長 原子力防護評価研究所（CEPN）・所長
Rethy K. Chhem	カンボジア開発資源研究所（CDRI）・所長
Tom K. Hei	コロンビア大学教授・放射線腫瘍医療センター・副所長
May Abdel-Wahab	国際原子力機関（IAEA）・保健部・部長

4 フェニックスリーダー育成プログラム（15人）

職名	氏名	所属	役割分担
理事・副学長	岡本 哲治	社会連携・広報・情報担当	プログラム責任者 放射線災害医療コース担当
副学長	神谷 研二	復興支援・被ばく医療担当 原爆放射線医科学研究所	プログラムコーディネーター 放射線災害医療コース担当
特任教授	静間 清	工学研究院	放射能環境保全コースリーダー 教員メンター
教授	坂田 桐子	総合科学研究科	放射能社会復興コースリーダー
教授	宿南 知佐	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
教授	細井 義夫	東北大学	放射線災害医療コース担当
教授	奥田 敏統	総合科学研究科	放射能環境保全コース担当
特任教授	観山 正見	学長室	放射能環境保全コース担当
特任教授	出口 博則	理学研究科	放射能環境保全コース担当 教員メンター
特任准教授	Dion Clingwall	医歯薬保健学研究院	放射能災害医療コース担当
特任准教授	高橋 秀治	理学研究科	放射能環境保全コース担当 教員メンター
特任助教	吉本 由紀	医歯薬保健学研究院	教員メンター
学生代表	Uranchimeg Tsegmed	医歯薬保健学研究科	放射線災害医療コース 先輩メンター
学生代表	高田 モモ	総合科学研究科	放射能環境保全コース
学生代表	小松 真理子	総合科学研究科	放射能社会復興コース 先輩メンター

5 外部評価の進め方

時間	事項	担当
8：30	開会挨拶	岡本プログラム責任者
8：35	フェニックスリーダー育成プログラムメンバー自己紹介	各自
8：40	外部評価委員自己紹介	各自
8：45	外部評価の進め方の説明	岡本プログラム責任者
8：50	平成25年度外部評価委員会以降の本プログラムの取組みに対する説明・評価	神谷コーディネーター
9：50	休憩	
10：00	平成25年度外部評価委員会で指摘された事項への本プログラムの対応について説明・評価	岡本プログラム責任者
11：00	外部評価のまとめ（ランチ含む）	岡本プログラム責任者
12：00	閉会挨拶	神谷コーディネーター

【お問い合わせ先Inquiries】
広島大学フェニックスリーダー育成プログラム事務室
Hiroshima University Phoenix Leader Education Program Office
〒739-8524　東広島市鏡山１丁目１番１号教育学研究科B棟810
1-1-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8524
TEL：082-424-4689・4638
E-Mail：phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp
URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/